地域の課題に対して多面的・多角的にとらえ、社会参画をめざす生徒の育成

―　１年　社会科　地理分野「世界のさまざまな地域」の学習を通して　―

1　主題設定の理由

2　研究の目標と仮説

3　研究の方法

4　抽出生徒Ａについて

5　研究の実際と考察

6　成果と今後の課題

第２２分科会

地域における教育改革とPTA

C　過密・過疎、へき地の教育

木村　正寿　　（豊田・旭中）

研究の概要報告

１．リポート内容にみる県内の教育実践の状況

第７２次教育研究愛知県集会の「過密・過疎、へき地の教育」分科会では、５本のリポートが発表された。

一つめは、地域素材を活用することで、縄文時代の人びとのくらしを具体的にイメージできることをめざした中学校社会科の実践である。土器の分類、遺跡見学、ポスター発表、ロールプレイなどの体験的な活動が、実践展開の大きなポイントとなっていた。

二つめは、地域のさまざまな「名人」と交流する場を演出することを通して、地域のよさに気づき、地域への愛着を深めることをめざした生活科の実践である。出会いや交流だけではなく、実践的な活動が位置づけられていたことが、学習の発展に大きく作用していた。

三つめは、地理分野の学習と地域課題とを結びつけることを通して、地域課題の分析力と社会参画への意識を高めることをめざした社会科の実践である。ＳＤＧｓの視点を軸にしたとりくみが、実践を発展させる上での大きなポイントとなっていた。

四つめは、小学校理科、中学校保健体育、小学校の総合的な学習と課外活動、中学校の総合的な学習などを通して、ふるさとの未来の創り手の育成をめざした実践である。学校の教育活動全体を視野に入れたダイナミックなとりくみであった。

五つめは、小規模校の利点をいかした、全校での活動、縦割り活動、ＩＣＴ機器を活用した他校との交流、地域とのかかわりなどの多彩なかかわり合いを通して、いきいきと学び合う子どもの育成をめざした実践である。子どもの実態に応じたきめ細やかな工夫が実践展開の上で大きな意味をもっていた。

２．討議された内容

討議では、5 本のリポートと関連づけながら、小規模校の特性をいかした教育実践のあり方、地域の「ひと」の思いにふれ、かかわる教育活動のあり方について意見が交わされた。地域とのつながりづくりの方法、学校全体さらには小中全体の教育の系統性、コロナ禍における地域とのかかわりの工夫、統合という現実の中での地域とのかかわりのあり方などについて、有意義な討議が展開された。

（中山弘之　稲垣安明）

報告書ができるまで

この報告書は、分会での討議、単組ごとに研究集会を経て作成されたものである。

第７２次教育研究愛知県集会に提出されたリポートは５本である。どのリポートも、各教組、各分会の実態をふまえたものであり、地域とのかかわりに力を入れ、素材や人材を有効に活用した実践の報告である。研究主題は以下の通りである。

・子どもに身につけさせたい力を明確にし、小規模校の利点をいかした教育支援のあり方

・過密・過疎、へき地における地域の「ひと」の思いにふれる教育活動のあり方

なお、わたくしたちの研究実践に対して、適切なご指導・ご助言をいただいた各先生方に心から感謝します。

助　　言　　者	中山　弘之（愛知教育大学）	稲垣　安明（北設・田口小）
分科会教研推進委員	酒井　厚志（知教連・大府南中）	清水　洸希（豊田・朝日丘中）
	大澤　彰介（知教連・常滑東小）	多湖　祐亮（名古屋・枇杷島小）
	森田　晃司（知教連・日間賀小）	田代　晋　（豊田・花山小）

１　主題設定の理由

旭中学校区では各小・中学校の特色をいかして、生活科や総合的な学習の時間を中心に、「ふるさと旭」の学びを展開してきた。本校では令和元年度より、旭支所の職員や地域会議委員と中学生が未来の旭のよりよい姿について意見交流を行う「旭中地域会議」と、「わくわく事業」へ中学生が参画する二つのとりくみ「旭中サンライズプロジェクト」を進めてきた。しかし、本校の卒業生が、「小学校から旭を活性化するために考えて活動してきたが、旭が変わった実感はない。旭の活性化に限界を感じている。」と発言し、生徒たちが「ふるさと旭」の学びのつながりや深まり・高まりを感じられておらず、旭の人・もの・ことの価値に気付けていないことがわかった。また、一貫性のない学びになっているという現状を認識させられた。

そこで本研究は、１年生社会科地理的分野「世界のさまざまな地域」の学習を通して、現状を把握し、旭地区を見つめ直すことで、旭地区の価値を見出し、地域の課題に対して主体的にとりくむための素地を育もうと考えた。地理的分野の学習における、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、「世界各地の人々の生活と気候」と「世界の諸地域」の単元で培った課題を見つめる視点をいかして、地域の課題について考えることができるようにした。

以上のことから、研究主題を「地域の課題に対して多面的・多角的にとらえ、社会参画をめざす生徒の育成」に設定した。

２　研究の目標と仮説

（１）研究の目標（めざす生徒像）

地域の課題を見つめ、主体的に地域社会への参画をめざす生徒の育成

（２）研究の仮説

仮説１　**社会的事象について予想や比較できる資料を提示して学習を進め、地域の課題に目線を向ける単元計画を立てれば、社会的な見方・考え方を働かせながら、意欲的に地域を見つめることができるだろう。**

仮説２　**社会的事象について、視点を定めて多面的・多角的に考察したり解決策を考えたりすることを繰り返せば、地球的課題や地域の課題、持続可能な社会づくりに対して切実感をもち、社会参画の素地をつくることができるだろう。**

３　研究の方法

（１）仮説１の手だて

手だて１　旭地区に近い稲武地区の雨温図や、今後の旭地区のまちづくり計画を用いて、社会的事象について自分事としてとらえられる資料を提示して、社会的な見方・考え方を働かせやすくする。

手だて２　単元のまとめに、旭地区の旅行計画を立てたり、旭地区の SDG s に関連する課題の解決を考えたりする活動を設定し、学習したことをいかして地域の魅力や課題を見つめることができるようにする。

（２）仮説２の手だて

手だて３　SDG s の項目を視点にもって、南アメリカ州の大規模な森林伐採やアフリカ州の発展にむけての課題についてよい面と課題面の両面から考え、社会的事象について多面的・多角的に考察できるようにする。

手だて４　学習したことをいかし、地域の課題と SDG s を結びつけ、持続可能な案を考える活動を位置づける。

４　抽出生徒 A について

資料から読み取ったことを書き出すことはできるが、読み取ったことから深く考察することに苦手意識をもっている。また、事前アンケートで『社会における問題にかかわりたいと思いますか？』という設問に、「かかわりたいと思うけど、私たちが動いて何か変わるのかという疑問はある。」と回答した。『自分が参加することによって、社会で起こっている現象が少しでも変えられるかもしれないと思いますか？』という設問には、「長期間やらないと変わらないと思う。」と回答し、関心はあるが消極的な姿がみえた。生徒 A が資料の読み取りを通して社会的事象について深く考察し、その経験をいかし、地域の課題について前向きにとりくもうとする姿を願い、変容を追うことで、手だての有効性を検証していく。

５　研究の実際と考察

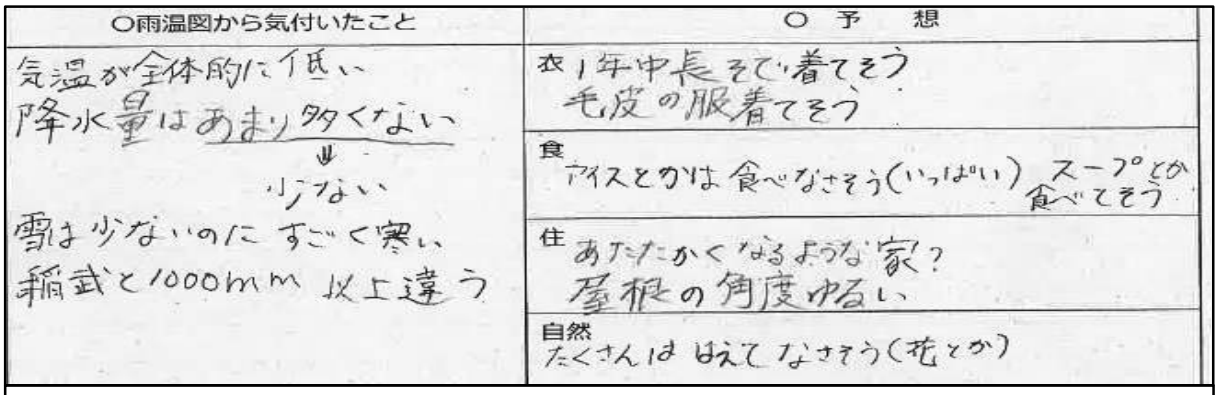
（１）旭トラベラー　～旭地区の旅行プランを考えよう～

「世界各地の人々の生活と気候」の単元では、各気候帯の都市の雨温図と、旭地区に近い稲武地区の雨温図と比較して読み取ることで、各気候帯の特徴や生活様式を予想しやすくした。また学習したことをいかし、海外の人にむけた旭地区の旅行プランを考え、旭地区の魅力を再発見する単元計画を考えた。

①各気候帯に暮らす人々の生活を調べよう。（手だて１）

各気候帯の学習では、その土地の雨温図と旭地区に近い稲部地区の雨温図を提示し、雨温図から気付いた気温や降水量の特徴や、衣・食・住、自然環境について予想する学習活動を位置づけた。

生徒 A は、各気候帯の雨温図と地域の雨温図と比較して、季節ごとの気温や降水量のちがい、自然環境の様子など、自分たちの生活とのちがいを資料から読み取り、社会的な見方・考え方を働かせ、衣・食・住、自然環境について具体的に考えることができた（資料①）。



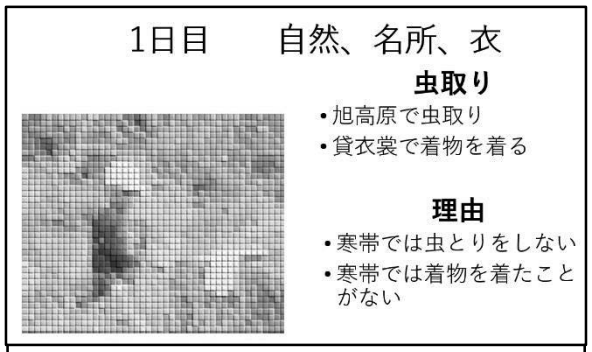
○雨温図から気付いたこと	○ 予　想
気温が全体的に低い 降水量はあまり多くない ⇓ 少ない 雪は少ないのにすごく寒い 稲武と1000mm以上違う	衣 1年中長そで着てそう 毛皮の服着てそう
	食 アイスとかは食べなさそう(いっぱい) スープとか食べてそう
	住 あたたかくなるような家? 屋根の角度ゆるい
	自然 たくさんはえてなさそう(花とか)

資料①　生徒Ａの雨温図の読み取り

②旭地区の旅行プランを考えよう。（手だて２）

単元で培った力をいかして、海外の人にむけた旭地区の旅行プランを考えていった。どの季節に、どの気候帯の人を、どこへ紹介したいかを個人で決め、招待する気候帯が同じ者でグループをつくり、一泊二日の旅行プランつくりに進んだ。旅行プランには、単元で学習した衣・食・住、自然環境に旭地区の名所を加えて、「旅行者に驚いてもらいたい」という視点をもって作成していくようにした。

Ａ のグループは春に寒帯の人を呼ぶことにした。寒帯で暮らす人々が暑さには慣れていないだろうと考え、「衣」については、半袖の服を準備する必要があるとし、「食」では地元の飲食店でうなぎを食べてもらおうと計画した。「自然環境」については、寒帯では見ることができない昆虫探しなどを計画して、満喫してもらおうとプランを作成した（資料②）。



資料②　生徒Ａのグループの旅行プラン（一部抜粋）

どのグループも、招待する気候帯の人たちの困り感や驚きそうなことを考えながら旭地区の飲食店や、レジャー施設、観光名所など、地域の魅力を意欲的に見つめ直す姿が活動の様子や旅行プランからみられた。

（２）世界の果てまで SDGｓ　～持続可能な旭を求めて～

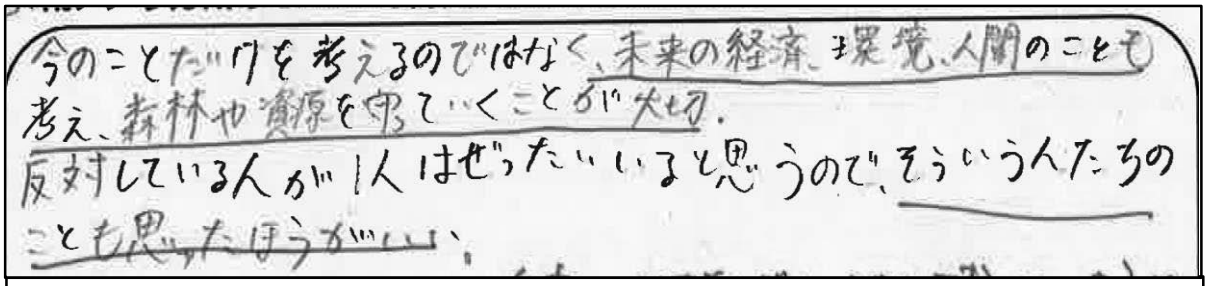
「世界の諸地域」の単元では、（１）の学習で、旭地区の地理的事象と関連づけて考えることで、学習した地域を深く見つめながら意欲的に学習を進めたことから、各州であらわれている地域的課題について、SDGｓの項目に視点を定め、多面的・多角的に考察できるようにした。

①南アメリカ州の課題について考えよう（手だて３）

学習課題を「南アメリカ州の SDGｓの課題解決にむけて話し合おう」とした。南アメリカ

州におけるSDGｓの課題を、「12」「13」「15」と生徒たちはとらえていたため、「大規模な熱帯雨林開発に賛成か。反対か。」というテーマで話し合いを設定した。生徒たちは、バイオエタノールについて、二酸化炭素を増やさないというよい面と、原料の栽培のために森林が伐採されること、食料となるべき作物も燃料にまわされることなど、課題面について調べた。

生徒Aは、「バイオエタノールの開発をもっと広めて、クリーンなエネルギーが広まれば国が豊かになってよい国をつくることができるようになると思う。森林伐採を監視する衛星もあるので森林伐採を進めてもいいと思う。」という賛成意見に対し、「食料となるべき作物を輸出したり食べたりした方が、経済的にも環境や人間にも優しいと思う。焼畑農業で森林のサイクルが追いつかずに結局別の森林を焼いてしまう事実があるから、今は経済成長になっていても、いずれ原料をつくる場所がなくなり、輸出する物もなくなってしまう。」と反対意見を発表した。資料を読み取り、事実から予想して考察することができた。「南アメリカ州のSDGｓの課題を解決するために大事なことは何か」という問いにAは、自然環境だけでなく、経済面や社会面、さまざまな立場の人々の生活にもかかわることを考え、最終的に賛成か反対かを判断していることがわかった（資料③）。

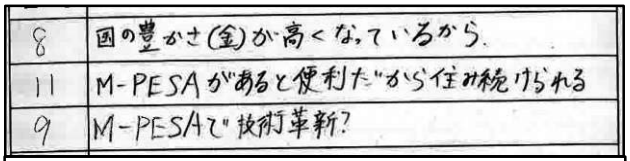

今のことだけを考えるのではなく、未来の経済、環境、人間のことも考え、森林や資源を守っていくことが大切。
反対している人が1人はぜったいいると思うので、そういう人たちのことも思ったほうがいい。

資料③　生徒Aの考え

②アフリカ州の課題について考えよう（手だて３）

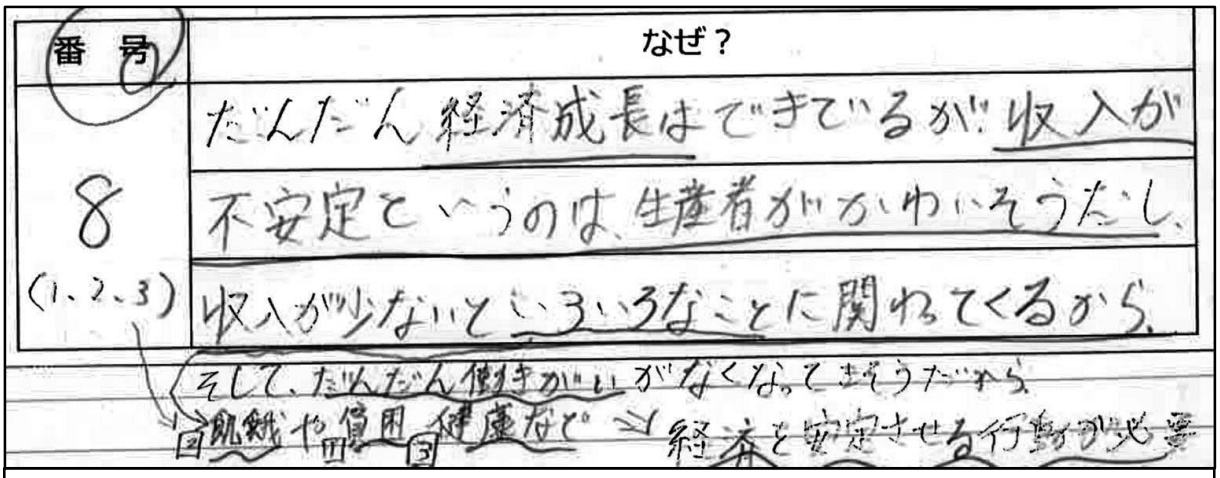
ここでは、ルワンダの国民総所得が上昇している資料や、携帯電話が急速に普及している資料、モバイル送金が普及し始め、人々の生活を助けていることがわかる資料を提示し、解決したと考えられるSDGｓの項目に視点を置いて、解決方法を考えていった。Aは、資料から「8」「9」「11」の項目が解決しているだろうと考えた（資料④）。

しかしその後、学習を進めると、都市化が進み人口集中によるスラムができていることや、モノカルチャー経済で成り立っている国が多いことがわかった。「どのSDGｓについて考えれば課題が解決できるだろうか」という問いに対して、SDGｓの課題に「8」を最終的に選びながら、「1」「2」「3」にもかかわる課題だとし、その地域における課題は一つだけではなく、多くが関連しあっていることや、解決したと考えられる項目が新たな課題を生んでいることにも気付いた（資料⑤）。



8	国の豊かさ(金)が高くなっているから.
11	M-PESAがあると便利だから住み続けられる
9	M-PESAで技術革新?

資料④　生徒Aが考えた解決したと考えられるSDGｓ



番号	なぜ？
8 (1、2、3)	だんだん経済成長はできているが、収入が不安定というのは、生産者がかわいそうだし、収入が少ないというようなことに関わってくるから。そして、だんだん働きがいがなくなってきそうだから。

資料⑤　生徒Ａの考え

③旭地区の課題について考えよう（手だて 2、4）

旭地区の現状を見つめるために、「第２次旭地区まちづくり計画」から以下の二点を取りあげた。

一つめは、旭地区のまちづくりを考えるアンケート調査である。「第２次旭地区まちづくり計画」が策定されるにあたり、地域の現状や住民の意識を把握するために中学生以上全員にアンケートが実施されている。その中で、「今後、力を入れていくとりくみの重要度」という設問について、住民の関心は、「洪水・土砂災害などの災害に対する安全対策」の項目が一番高かった。そこで、環境面にかかわる旭地区のとりくみから SDGｓを視点に置いて考えていくことにした。

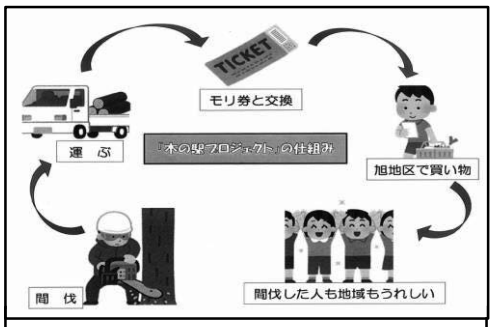
二つめは、旭地区の人口推移である。旭地区は、空き家バンクなどの定住施策の推進により、出生数は２桁を維持しているものの、20 年後には、1000 人以上人口が減ることが予想されている。アフリカ州の学習で、SDGｓの項目の中の「経済」「社会」に視点を置いてさまざまな側面から考えていたことから、人口減少について SDGｓの視点から考えていくことにした。

この２点の地域課題について、「世界の諸地域」で培った社会的な見方・考え方をいかし、課題解決にむけて持続可能な案を考えていった。

ア　「木の駅プロジェクト」を持続可能な活動にしよう。（手だて２、４）

南アメリカ州で学習したことをいかすために、「木の駅プロジェクト」を取りあげた（資料⑥）。

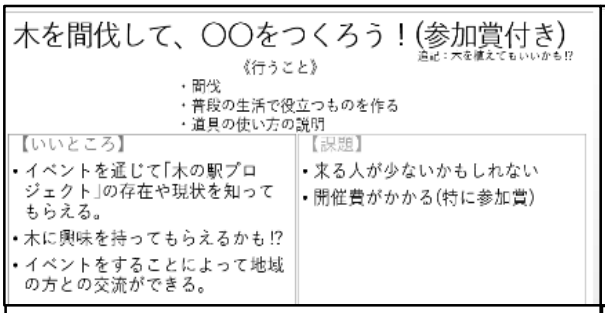
旭地区では、「旭木の駅プロジェクト」と呼ばれ、2011 年から活動をしている。10 年間の活動で、約 2500 万円を地域に還元していたり、土砂災害の危険性の緩和に貢献したりする側面もある。一方、高齢化



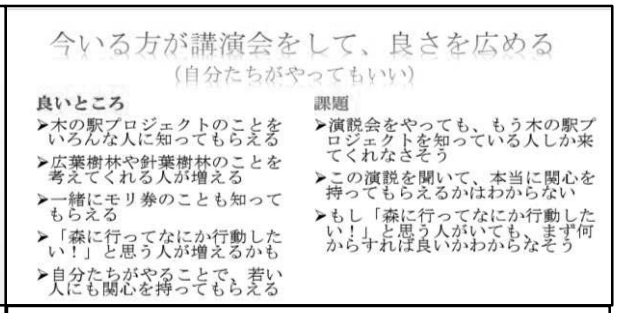
資料⑥　木の駅プロジェクトのしくみ

により、存続が危ぶまれる側面もある。そこで、「木の駅プロジェクトを持続可能な活動にするための案を考えよう」と学習課題を設定した。

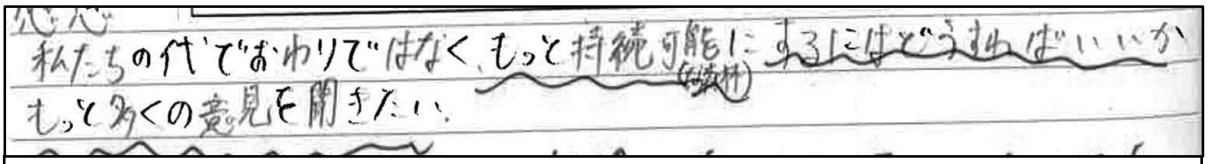
まず、どの SDG s とかかわりがあるか考え、意見を出しあい、「8」「11」「13」「15」の項目にかかわっていることを全体で共有した。その上で、「木の駅プロジェクトが縮小されたらどうなるか」と発問すると、「土砂災害の危険性が高まってしまう」「土砂災害が起こると住み続けられない町になってしまう」「モリ券が使われなくなり、旭の経済にも影響が出る」などととらえた。生徒たちの切実感に高まりがみられたので、地域の課題に対して多面的・多角的に見つめるために、持続可能な案をよい面と課題面から考えていった（資料⑦⑧）。A の持続可能な案から、自分たちから地域にかかわっていくことが、持続可能な社会に近づくという思いをもったことがわかる（資料⑨）。



資料⑦　生徒が考えた持続可能な案



資料⑧　生徒 A が考えた持続可能な案



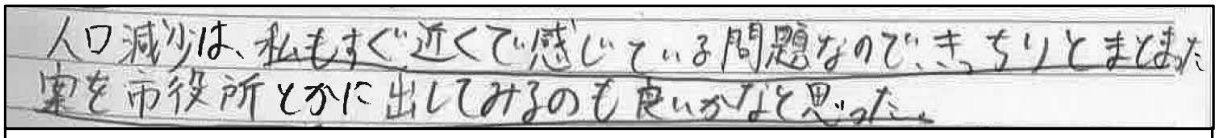
資料⑨　生徒 A の案を作成した後の振り返り

イ　人口減少 STOP につながる案を考えよう。（手だて２、４）

アフリカ州で学習したことを生かして、旭地区の人口推移から「人口減少 STOP につながる案を考えよう」と学習課題を設定した。まず、人口減少で考えられる SDG s の課題について考えた。社会面や経済面を中心に「3」「8」「11」、木の駅プロジェクトについて考えた経験から、「15」が課題にあがった。A は、「17」の項目についても取りあげており、「地域の人と協力して達成する」とし、意欲的にとりくもうとする姿がみえた。ここで、全体に「課題を克服する案は？」と問いかけ、人口減少 STOP につながる案を考えた（資料⑩）。資料⑩でみられるように、生徒たちは SDG s に視点を置きながら、人口減少に対して、多面的・多角的に課題をとらえ、解決策を考えたことがわかる。A は、地域の人口が減少していくことに対し、切実感をもち、社会へ参画してみようとする思いが芽生えたことがわかる（資料⑪）。

対策案	魅力を伝えるときにイベントで伝える	保育施設を建てることや、 高齢者が長生きできるようにする	働ける場所をつくる
解決できる SDGｓ	・モリ券が使えるイベントを開く「8」 ・医療関係者や商売をする人を呼んで、お店を増やす「9」「10」	・出張医療者制度をつくる「3」 ・保育施設や病院を増やす「3」 ・子育て世代に支援金「10」「11」	・林業に力を入れる「15」 ・収入を増やす、「8」 ・空き家バンクを活用する「11」
よい面	・旭にかかわる人が増える ・勉強ができる場や買い物ができるようになる ・移住者から新しい技術が持ち込まれるかも	・出生率が上がる ・人口が維持できる ・子どもを支援する	・旭の自然を守る ・生活しやすくなる ・働く人が移住してくる
課題面	・イベントに来なかったらどうするか ・お店どうしの競い合い	・医療従事者が足りない ・お金の出どころ	・実行するためにお金がかかる ・住み続けてくれるかわからない

資料⑩　各グループの人口減少 STOP 案


人口減少は、私もすぐ近くで感じている問題なので、きっちりとまとめた案を市役所とかに出してみるのも良いかなと思った。

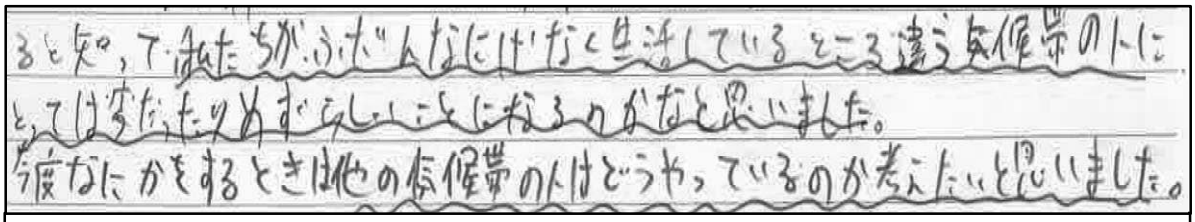
資料⑪　持続可能な案を作成した後の生徒 A の振り返り

6　成果と今後の課題

（１）成果

①仮説１について

地域の資料を用いて比較したことで､雨温図からその土地の生活様式や自然環境について、社会的な見方・考え方を働かせて考えることができた。単元のまとめに旅行プランを作成したことで、旭の魅力を伝えながら、招待する気候帯の人が旭地区の気候に対応できるようにしたり、他の気候帯の生活様式にないものを紹介しようとしたりした。学習したことをいかし、意欲的にとりくみ、地域を見つめ直すことにつながった（資料⑫)。


ると知って私たちがふだんなにげなく生活しているところ違う気候帯の人にとっては変だったりめずらしいことになるかなと思いました。
今度なにかをするときは他の気候帯の人はどうやっているのか考えたいと思いました。

資料⑫　旅行プラン作成後の生徒の振り返り

②仮説２について

SDGｓに視点を置き、よい面と課題面の両面から考察し、それを繰り返したことで、持続可能な社会づくりには、多面的・多角的に考えなければならないことを理解し、問題意識を高くすることができた。旭地区の課題に対して切実感が高まり、提案するだけではなく、財政や雇用、従事者や観光客などを考慮した案をつくることの難しさを理解し、その上で社会

に参画してみようとする思いが芽生え、地域の課題解決にむけて追究しようとする姿が見られた（資料⑬）。

私は今回自分の満足な担をやって47人口減少STOPは止められない
ものだと思っていたけれどしっかりと考えみんなで練ってゆけばSTOPできるか
もしれない糸口が見つかりとてもおもしろかった。なので、ヨーロッパのくらしをもっと

資料⑬　持続可能な案を作成した後の生徒の振り返り

③生徒 A の変容

単元の終末に、事前アンケートと同じ『自分が参加することによって、社会で起こっている現象が少しでも変えられるかもしれないと思いますか？』の設問に A は、「私たちが行動しないと未来をよりよくできないから参加したいと思う。」と回答し、学習前よりも社会参画への意識が高まったことがわかった。

（２）今後の課題

今回の学習で、話し合ってつくりあげた案を実行するところまではできなかった。総合の時間を中心に他の教科領域と横断的に学習を進めたり、教育活動全体でとりくんだりして、実行に移せば、社会参画の素地をより確かなものにできると感じる。しかし、今回の実践での手だてによって、社会参画の意識は高まったので、今後も単元を工夫し、生徒のさらなる成長をみることができるようにしていきたい。